

ひとりだち

きこえとことばの
支援センターだより
R7 年 10月号



みみの助

令和7年度『夏季研修会』報告

きこえとことばの支援センター主催「夏季研修会」を8月22日（金）に行いました。当校職員、保護者、聴覚障がいのある子どもの支援を行う関係の方等の参加だけでなく、オンラインや飛騨特別支援学校のサテライト会場からも関係の方々にご参加いただきました。

講師には、同志社大学免許資格課程センター 教授 中瀬浩一氏をお招きし、「きこえない・きこえにくい子どものセルフアドボカシーの力を育てるために考えておくこと」と題して、講話をいただきました。

講話では、聴覚障がいのある子どもが、自分自身のことを周囲に説明したり、必要なサポートを求めたりする「セルフアドボカシー」の力を高める重要性について教えていただきました。聴覚障がい児は、日常生活の中で「聞くための努力」を常に強いられ、必要以上に疲れてしまうことも多く、困難を感じやすい状況にあります。そのような中で、自分や周りの状況を捉え、「自分がどうしてほしいのか」を考え、それを言葉でしっかり伝える力を育てることが大切であると学びました。また、聴覚障がい児に関わる大人は、子どもが困った時に「助けて!」と言えるような環境づくりや、支援を求める練習の機会を日常の中で意識的に設けることが重要であると教えていただきました。

ご家庭でも、子どもが安心して「自分の気持ちを話せる」「助けを求められる」雰囲気づくりが大切です。

例えば、簡単なことでも「助けて」や「手伝って」と言える場面をつくるのが、子どもにとって「支援を求めることは自然なこと」と感じられる第一歩になります。子どもの年齢やその時の状況にもよりますが、場合によっては「選ぶ」場面を設けることで、意思表示のできるよい機会にもなります。また、子どもの発信を受け止め、反応することも非常に重要です。「そんなことで困っているの?」ではなく、「教えてくれてありがとう」「困っていたんだね」と、子どもの気持ちに寄り添う言葉を掛けることで、子どもは「話してよかった」と安心できます。さらに、「どうしたらよいかな?」「一緒に考えてみようか」と対話を通して、子ども自身が考える力にもつながります。

参加者からの感想の一部や、質問に対する中瀬先生からの回答を、当校ホームページ内の「きこえとことばの支援センター」に、「夏季研修会 報告」として掲載しています。ぜひご覧いただき、今後の子どもたちとの関わりや支援の参考にしていいただければと思います。

研修会の様子





*ナショナル補聴器センター 11月 5日、19日 (毎月第1・3水曜日)

*理研産業 11月 12日 (毎月第2水曜日)

場所：本館1階 補聴相談室

時間：13時30分～相談が終わり次第終了

*イヤモールド作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて補聴相談係への連絡後、申込用紙の提出が必要です。